

加古川周辺に普通に見られるコムスジときわめてよく似たリュウキュウミスジというチョウが奄美大島から南の地域に分布していて、その飛翔形態までそっくりだが、両種が混生する地域はなく、じっくり観察すればその区別も難しくはない。1993年9月、初の沖縄訪問時に本部半島平敷でツマベニチョウとの出会いに感動したその同じ日に、このリュウキュウミスジも初めて目にしているが印象はうすい。

2003年10月30日：波照間島南。「南」小ジャングル入り口では、以前と同じようにあたりの草を食んでいる2頭のヤギが7年ぶりの訪問を出迎えてくれる。自転車1台がやっと通れるあぜ道脇で、7年前と同じようにテリトリーを張るリュウキュウムラサキ♂をビデオに収める。ルリタテハやウスキシロチョウも防風林縁をかすめて飛ぶ。かつては余裕を持って進むことのできた小ジャングル入り口一帯は、勝手のわかった人でなければとても踏み込めないほどに荒れてしまっていて、あきらかに人の往来が激減したことを示す。それでも奥へと踏み込んでゆくと、いくらか道幅が広がって、リュウキュウミスジやルリタテハが陽だ



まりで遊んでおり、低い位置の葉っぱ上で休んでいる金緑色の光沢を輝かせたナナホシキンカメムシが目に飛び込んでくる。

2004年9月15日：石垣島バナナ公園周回道路。あらたなランタナ花壇への訪問者はきれいなアカタテハ。このチョウも花から花へといそがしく飛び回るがホリイコシジミにくらべれば蜜を吸うために静止のタイミングがあるだけ撮影はやさしい。もっぱらランタナ花壇を中心に観察をしている視野に山側上方から降りてくる大きな白いチョウ：ツマベニチョウが飛び込んできて、わずかに真っ赤な花がみられる山側道路沿いのハイビスカス並木に舞い降りる。急いでカメラのシャッターチャンスを期待するが、一つの花で数秒蜜を吸っただけで

撮影のタイミングをえられないまま飛び去られてしまう。しかたなく、その並木周辺をスイスイと飛び遊ぶリュウキュウミスジだ



けでもできるかぎりいいショットを、と次々と場所を変えるチョウについてゆく。